

テレビ新広島文化大学講演

農業・環境シリーズ第11話 2009年3月10日

「平和都市・広島から農業や環境問題を考える」

山本 禎紀

農業のはたしてきた歴史的、地域的役割を再確認し、その大切さを明らかにするとともに、わが国の現状、たとえば食料の自給率40%というとらえ方だけでなく、足元の広島県の現状をより具体的に、その深刻さを提示した。この難問を解決する道はあるのか、政治、行政、そして科学技術や教育に求められるのかを検討し、望み得ない現状も指摘した。この難問は、被爆都市広島からの平和への願いが世界に深く受け入れられない現状と関連しているととらえ、その根拠を、大多数の市民の無関心や無理解にあるように感じていることを提起した。市民・消費者は、解決の道を探り出しにくいこれらの難問に関心を抱き、本質を理解し、解決の道を探る努力と行動をすることで、地域や世界を動かすことができるだろうと、話題を提供した。